

アセットマネジメント計画

中長期的な視点で将来の資産の健全度や財政収支を見通し、重要度・優先度を踏まえた投資平準化を図ることにより、効率的・効果的に水道施設の資産を管理運営する、体系化された実践活動を指します。



経営戦略（投資）

経営戦略では、アセットマネジメント計画や上下水道ビジョンの目標と整合を図りつつ、現実に即した経営の基本計画として10年間の投資・財政計画を策定しています。

そのうえで今回お示したA案とB案の違いは右記のとおりです。

今回検討したA案（ハイペース型）とB案（段階型）の大きな違いは**管路の更新ペース**になります。

A案では、重要施設配水管の更新をアセットマネジメントに合わせた更新率で行う投資案でしたが、まずは、ビジョンの目標を達成するための投資額であるB案を選択し、計画前半の投資額を階段型として調整をしたものになります。

人員や工事の担い手不足

A 案

(単位：百万円)

	2025 R7	2026 R8	2027 R9	2028 R10	2029 R11	2030 R12	2031 R13	2032 R14	2033 R15	2034 R16
配水管布設費	84	85	86	87	88	89	90	91	92	94
配水管改良費	3,785	3,865	3,945	4,025	4,105	4,205	4,285	4,252	4,199	4,100
新営改築費	264	262	260	258	256	254	252	250	248	246
量水器費	8	9	9	9	9	9	10	10	10	10
その他	17	18	18	18	19	19	19	20	20	20
建設改良費 計	4,159	4,559	5,020	5,303	4,248	4,513	4,865	4,800	4,323	4,813

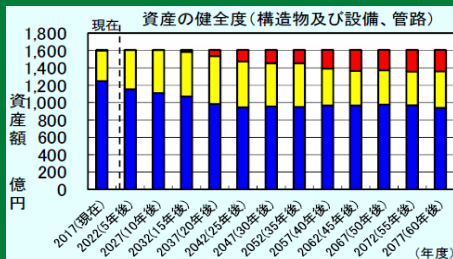
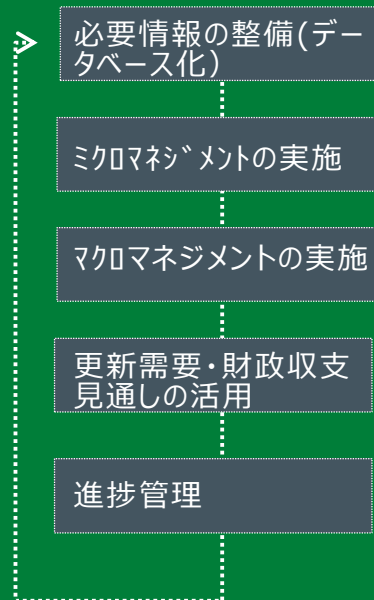
B 案

(単位：百万円)

	2025 R7	2026 R8	2027 R9	2028 R10	2029 R11	2030 R12	2031 R13	2032 R14	2033 R15	2034 R16
配水管布設費	78	79	82	83	86	87	88	89	91	91
配水管改良費	2,968	3,285	3,565	3,914	3,869	4,481	4,162	4,505	4,457	4,180
新営改築費	292	400	666	468	797	350	620	454	500	589
量水器費	8	9	9	9	9	9	10	10	10	10
その他	17	18	18	18	19	19	19	20	20	20
建設改良費 計	3,364	3,791	4,340	4,493	4,780	4,946	4,899	5,077	5,078	4,890

どちらを選択した場合も投資の方向性（本編56ページ）に示した目標に影響はありません。

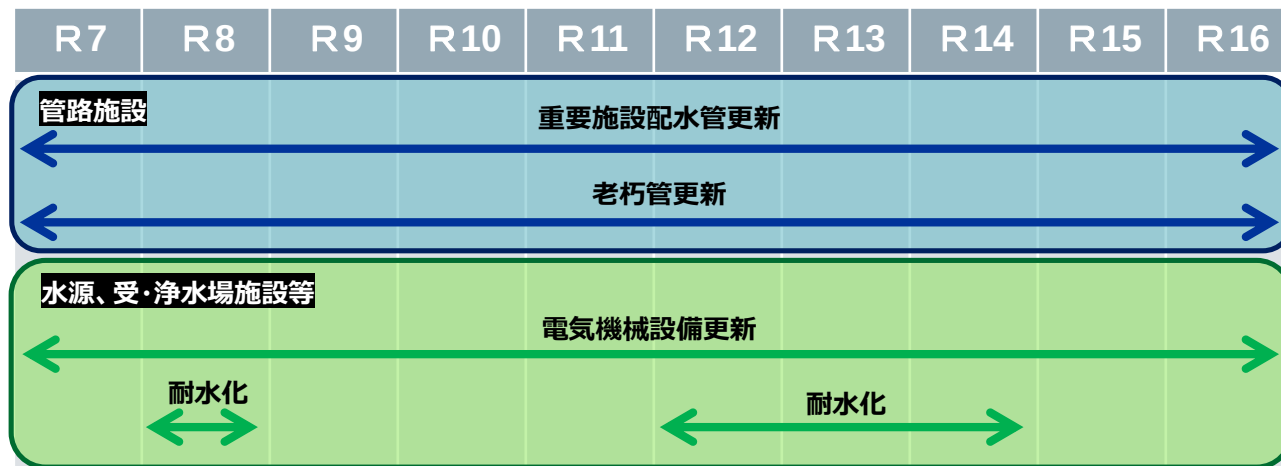
アセットマネジメント の手法



資産の健全度を明らかにし、将来的な施設整備や財政の健全化を目指します。

アセットマネジメントは、左記の手法で行っており、これらを実践することで、水道施設全体のライフサイクルコストの縮減に繋がるといった効果があります。アセットマネジメントは、ストックの考え方に資金と人材面の要素を加えて進捗管理をしていくものとなっており、現行のアセットは投資計画のA案と同等の投資を見込んだものになっています。

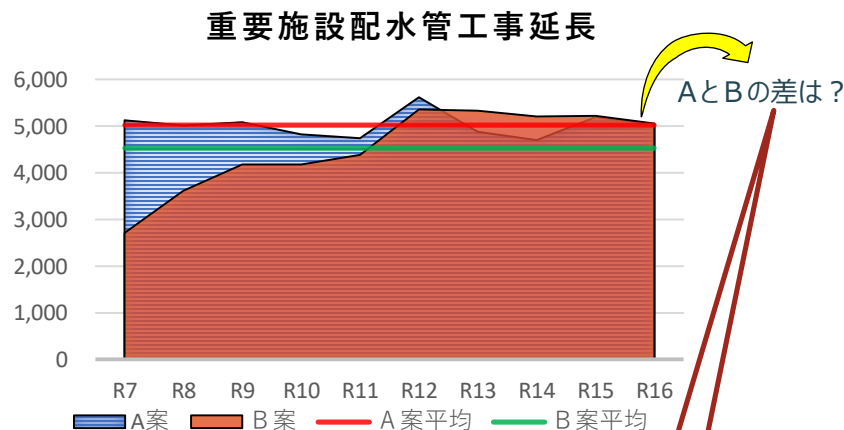
一方で経営戦略の投資計画は、ビジョンの目標に合わせた投資計画としており、その主な内容は以下のとおりとなっています。



重要施設配水管工事の平準化（先送り）イメージ

重要施設配水管更新工事の見込みについてB案では段階的な投資となるよう投資の平準化を図ります。その際の工事延長の推移は、グラフに示すとおりとなります。

B案はA案より低く見積もっていますが、A案を下回る部分については、令和13年度以降で増加を見込んでいます。それでも減少分を補えない分については、令和17年度以降に先送りになります。経営戦略の目標である管路更新率は、ビジョンの目標に合わせているため、目標への影響はありません。



令和13年以降でA案を上回る予定ですが、差分については、令和17年度以降に先送りになります。

ストックマネジメント計画

川越市のストックマネジメントは予防保全の観点から、必要な場所へ必要なだけ点検や調査を実施し、コストの削減を図るとともに、道路陥没などによる事故のリスクを逡減させ、市民の暮らしと安全を守ることを目的としています。



経営戦略（投資）

経営戦略では、ストックマネジメント計画や上下水道ビジョンの目標と整合を図りつつ、現実に即した経営の基本計画として10年間の投資・財政計画を策定しています。

そのうえで今回お示したA案とB案の違いは右記のとおりです。

今回検討したA案（ハイペース型）とB案（段階型）の大きな違いは管渠耐震化工事の量を調整したのになります。

段階的に耐震化工事を行う場合、ハイペース型より進捗が遅れることとなりますが、令和10年と令和12年に職員を1名ずつ増員することで工事量を増やし、目標を達成できるペースとする投資案となっています。



A 案

(単位：百万円)

	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034
	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
公共下水道施設拡張費	910	756	341	408	811	514	431	384	307	340
公共下水道施設改良費	2,223	1,900	2,163	2,343	2,165	2,528	2,479	2,662	2,416	2,421
流域下水道費	284	290	296	302	308	314	320	327	333	333
固定資産購入費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
建設改良費 計	3,416	2,946	2,846	3,055	3,290	3,654	3,534	3,372	3,400	3,438

B 案

(単位：百万円)

	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034
	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
公共下水道施設拡張費	910	756	341	408	811	514	431	384	307	340
公共下水道施設改良費	1,560	1,720	2,163	2,343	2,165	2,528	2,479	2,662	2,416	2,421
流域下水道費	284	290	296	302	308	314	320	327	333	333
固定資産購入費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
建設改良費 計	2,754	2,766	2,800	3,052	3,285	3,356	3,231	3,372	3,056	3,094

どちらを選択した場合も投資の方向性（本編58ページ）に示した目標に影響はありません。

ストックマネジメントの手法



① 必要な個所の調査



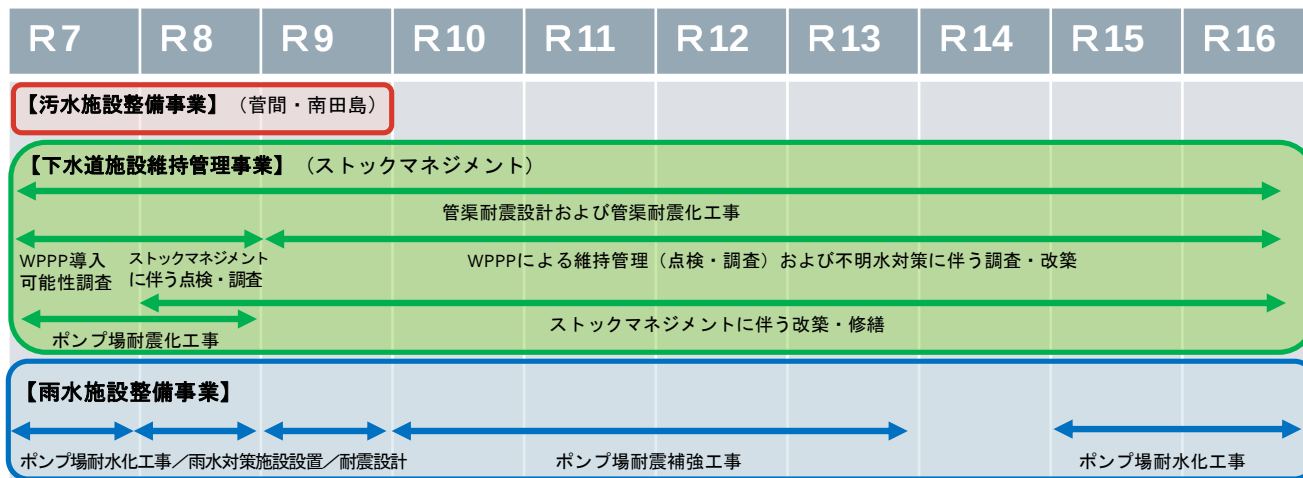
② 調査結果の解析
修繕・改築計画



③ 計画に基づく修繕・改築工事の実施

ストックマネジメントは、左記の手法で行っており、調査結果に基づく修繕改築計画を上下水道ビジョンや経営戦略に落とし込んでいます。

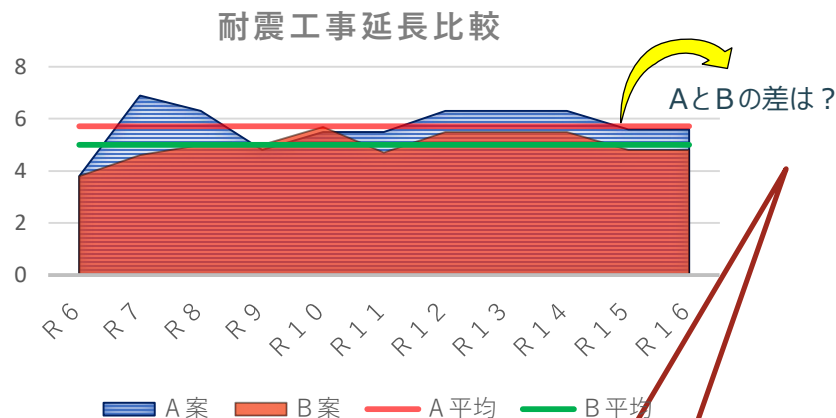
ストックマネジメント計画やその他の事業を含めた投資計画の主な内容は以下のとおりです。



■ 管渠耐震化工事の平準化（先送り）イメージ

耐震化工事の見込みについてB案では段階的な投資となるよう耐震化工事の平準化を図ります。その際の工事延長の推移は、グラフに示すとおりとなります。

B案はA案より低く見積もっていますが、A案を下回る部分については、民間の開発事業による管渠等施設の移譲による耐震化管渠の増加を見込んでいます。移譲により、耐震延長が増加するため、目標への影響はありません。



民間移譲分を見込みます（耐震化延長は伸びる）が、差分については、令和17年以降に先送りになります。